

【参考資料】

「知り 100 プロジェクト」体験事例（一部）ご紹介

■うどんをうつ

うどんの本場香川県にて、「まんてんがんかーさん（オールマイティなお母さん）」こと馬場さんのご指導のもとうどん打ち体験に挑戦しました。

うどんの材料はいたってシンプル、小麦粉と塩水だけです。まずはたらいに入れた小麦粉に水を混ぜる。小麦粉と水が混ざって、ダマになっていく感触でその日の水の量を決めていきます。ある程度混ざって来たら、ビニールの上から素足で踏みつけます。「しわしわ」という優しいかけ声と共に。まんてんがんかーさんの見本に合わせて、隊長さおりもステップ踏みます。「めんこ（ガタガタ）に踏んだらいけん」とかーさんに言われ、思わず足下を見ようとすると「前を見るんや〜」とアドバイスが。前を見る事で体の中心に力が入り美味しくなるのだそう。…



■かまどでご飯を炊く

熊本県播磨で、かまどでご飯を炊く体験に挑戦！その建物はおよそ築 100 年の木造の日本家屋で、そのかまどもかなり年が入っています。目の前は谷。かなり開けた視界の向こうに大きな山々が広がっています。今回はこちらのかまどでご飯を炊きます。

かまどでご飯を炊くためには火が必要。火は枯れた杉の葉と竹にマッチでつけます。知り 100 隊さおりが心のままに薪をくべ火をつけても炎はうまく燃えません。上手に火をつけるための並べ方を教わります。下から杉の葉、竹、薪。炎が順序だてて伝わり全体に火が回るのです。そして火の勢いをつけるために、昔話とかで見た「ふーふーするやつ」の登場！…



■塩をつくる

塩づくりにチャレンジ!世界中のあらゆる料理に欠かせない調味料の王様、「塩」は果たしてどう作られている? ということで『知り 100』隊の隊長さおりが、高知県田野町で天日塩作りをされている田野屋塩二郎さんを訪れました。塩二郎さんの天日塩の作り方をじっくりと説明すると…

- ① 海水をくみ上げる
- ② 採かんタワーで、水を 1 ヶ月循環させ、「かんすい」という濃い海水を作る
- ③ 木枠に移し、ビニールハウスで 3 ヶ月間かけて水分を蒸発させる

と、シンプルな行程ではあるけれど、60 度を超えるハウス内での重労働は、想像以上に過酷です。

塩二郎さんは 365 日働くので休みは 1 日もありません。「今は塩作りが一番面白いから、つい」と笑顔の塩次郎さん、かっこいいなあ。ハウスの入り口には「地獄の一丁目」の札。お茶目だなあ。

と言っている間にも作業はぐんぐん進みます。さおりは持ち前の根性で、笑顔ながらも真剣な目つきで集中。しかし過酷なチャレンジに、さすがのさおりも今回はギブアップしてしまうのでしょうか?…



■木こりをする

東京都西多摩郡の日の出町で親方園田さんの指導のもと「木こり」のお仕事を体験してきました！親方から「緊張してやりなさい」と言われる知り 100 隊員の 2 人。心して、早速チャレンジです。チェーンソーは扱いが難しいので、今回は普通のノコギリで直径 30cm ほどの杉の木を切り倒します。まずは倒れる方向を定めるために 60 度くらいの V 字の切れ目を入れ、受け口を作ります。まっすぐノコギリを引くことはけっこう難しいのですが、2 人とも筋がいい！握力がなくなるまで 1 時間、ひたすら根性でノコギリを引き続けます。さて上手く気を切り倒せるのでしょうか?…



■ジーンズを染める

藍染めを体験、誰でも馴染みのあるジーンズがどのように藍く染まるのか？をリアルに試してみることに！江戸時代から続く日本伝統の武州正藍染(ぶしゅうしょうあいぞめ)を現代に伝える埼玉県羽生市の中島紺屋さんを訪れました。武州正藍染は日本伝統の染色技術。藍には防虫や消臭効果があるため、剣道着にも広く使われ親しまれています。その武州正藍染でジーンズを染めたらどんな味わい深さが生まれるのでしょうか。では、早速チャレンジ！

藍染めは藍の葉っぱを腐葉土化させ、さらに液につけて発酵させた自然 100%の染色液でおこないます。発酵させた藍からは独特の匂い。かなりキツイです…。

工場の地面に並んだ四角い深さ 2m の穴に入った染料に、水で濡らしたホワイトジーンズを浸けて揉むこと 30 秒。

引き上げたジーンズはなぜかきれいな緑色！あれ？と思っている間に緑色はみるみると濃紺に。

空気に触れることで色は変化するそうです。この工程を繰り返すほど紺は深みを増していきます。

さて、みんなのジーンズはどんな色になるのかな？…。



■地底にもぐる

地底の洞窟探検を体験、暗闇と静寂のその先には何が待っているのか！？埼玉県のとある野性味あふれる洞窟を「洞窟マン」さんのガイドでいざ冒険へ！

真夏でも冷んやり涼しく暗い洞窟の中を、ヘッドライトの明かりだけを頼りにほふく前進！ときには胴体を通るのもギリギリな高さ 40cm ほどの狭い場所を、バンザイ状態で這うように進むことも。

特殊な環境ゆえ、はじめは「ずっと狭いままだったらどうしよう・・・」という不安と闘っていたのが、「ぜったいムリ！」と思うような難関をクリアしていくごとに、アドレナリン出まくりの興奮と、冒険しているワクワク感がわき起こってきたというから不思議ですね。これぞ大自然ならではのアドベンチャー感！！洞窟の最深部の空間に辿り着いた時、みんなのヘッドライトを一斉に消してみました。

するとかつて経験したことのない完全な暗闇と静寂があたりを包み込み、まさに「異次元」。

ゴールに到達し、その「異次元」から地上へ脱出した瞬間に、はたして人は何を感じるのでしょうか？…。



その他、「山頂でチーズを焼く」「富士山に登る」「溶接をする」「うなぎをつかむ」「滝にうたれる」など続々とレポートがあがってきています。乞うご期待！

■ネタ消費とは

フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアに頻繁に書き込みをする人が、他人からの共感を得たり、自分をアピールしたりといった目的でネットで話題になりそうな消費をすること。

2012年の野村総研の調査結果では、「ネタ消費」は2011年で3400億円あり今後更に増加すると出している。

<http://www.nri.co.jp/publicity/mediaforum/2012/pdf/forum181.pdf>